

おしと

十三番

三浦 陽子
Hai Fujibayashi

4



成年向け

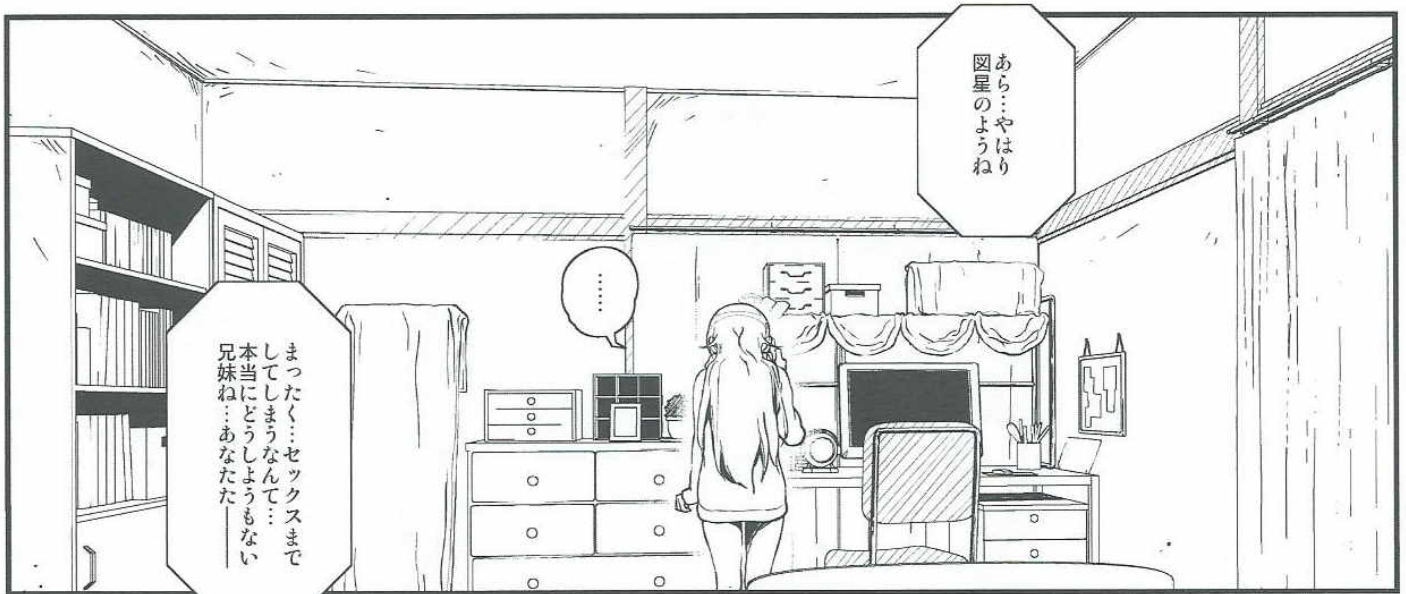
4

「五十字」
☆
「かわいい」



「おのゝいもう
「onnani kawaii
「wake ga nai





あら...やはり
凶星のようね

まったく...セックスまで
してしまうなんて...
本当にどうしようもない
兄妹ね...あなたた

.....



お願い...
黒猫...誰...にも
言わない...!!

桐乃...?

京介と...一緒に
いられなく...
なる...



あたしだって
分かってる!
兄妹でしちゃいけない
ことだったって!!

ちよっと...!?
桐乃...

でもっ...!
あたしはただ...
京介と

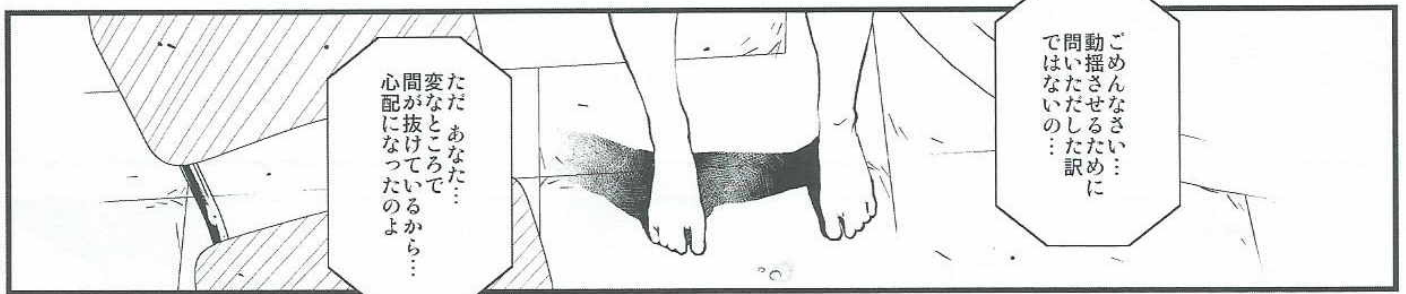
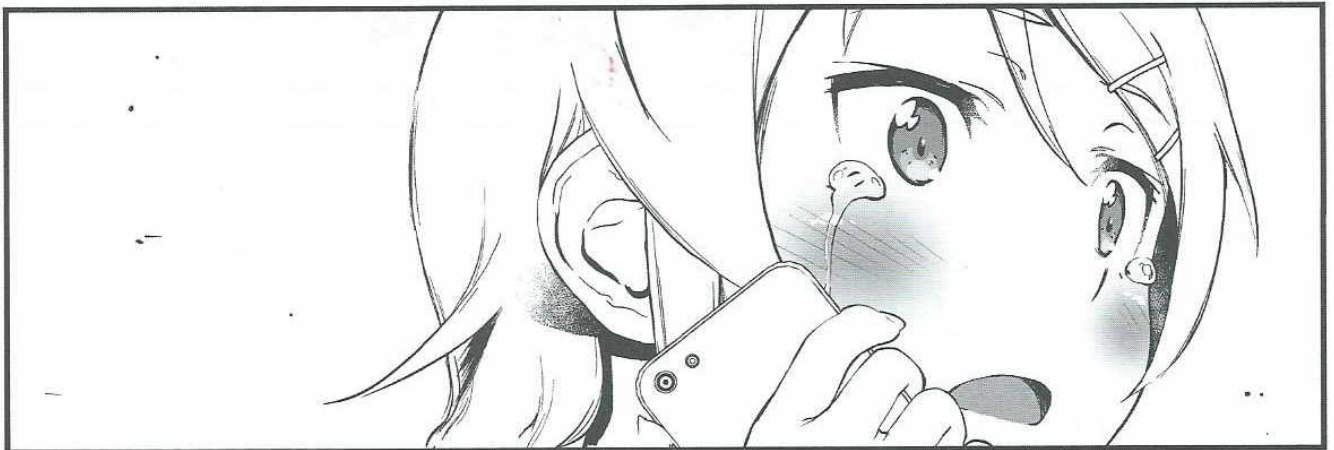


落ちつきなさい
桐乃!!

良い?
良く聴きなさい...



世界中の人間が
あなたたち二人を
否定したとしても
私だけは味方よ



ごめんなさい！
動揺させるために
問いただした訳
ではないの！

ただあなた！
変なところで
間が抜けているから！
心配になったのよ！



このこと！当然
ご両親は知らない
のでしょうか？

うん！

これからどうする
つもりなのか！
詮索するつもりは
ないけれど

隠し通すつもりなら
バレない様に
気をつけなさい！

……

それを！伝えて
おきたかっ！
桐乃？



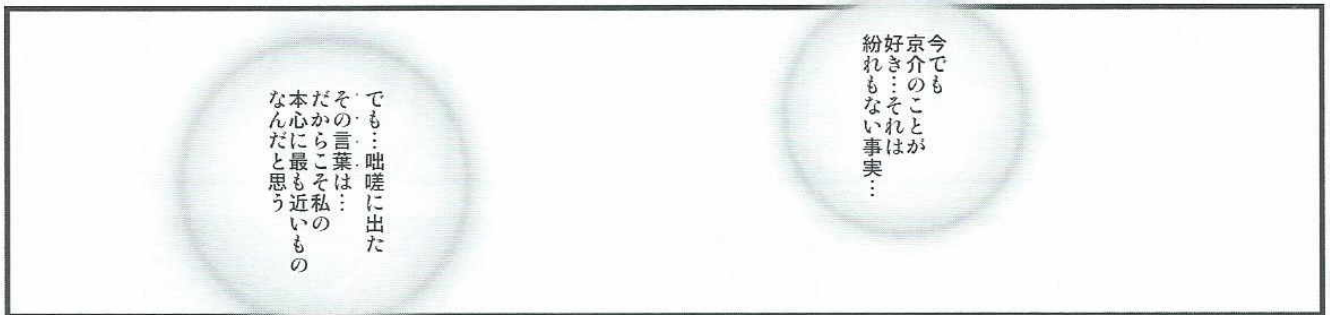
なんで…
そんな…

あんただって…
あいつのこと
好きなくせに…



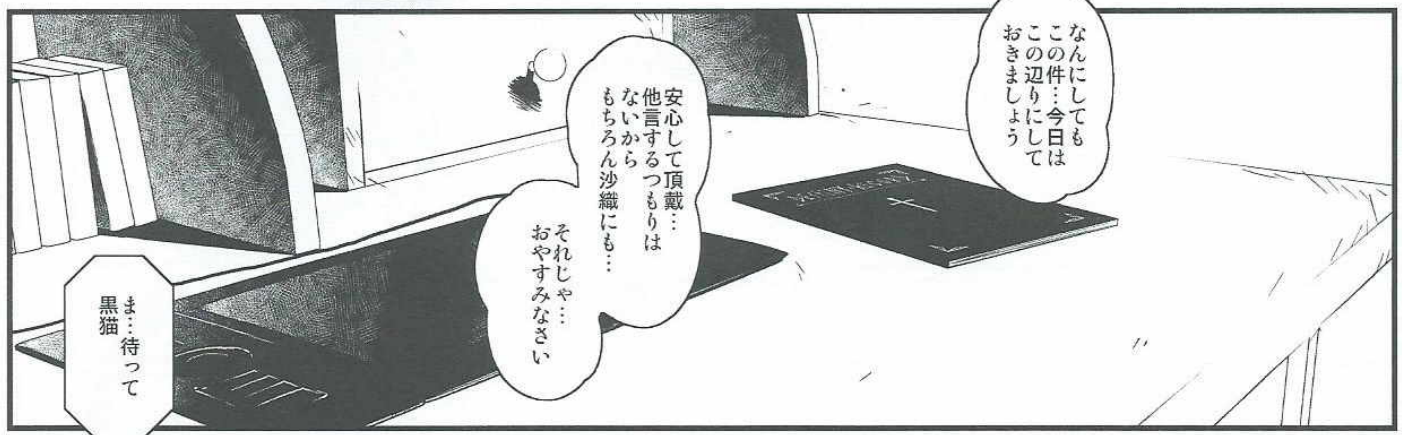
すっごいすっごい…
好きなくせに…

そうね…
なぜ…かしらね…



今でも
京介のことが
好き…それは
紛れもない事実…

でも…咄嗟に出た
その言葉は…
だからこそ私の
本心に最も近いもの
なんだと思う



なんにしても
この件…今日は
この辺りにして
おきましょう

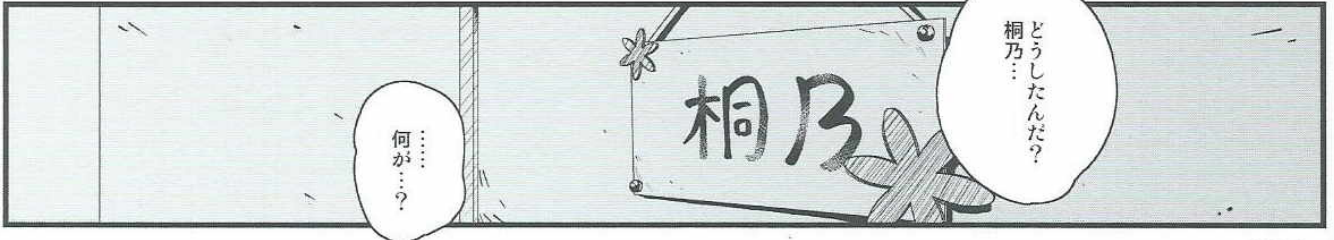
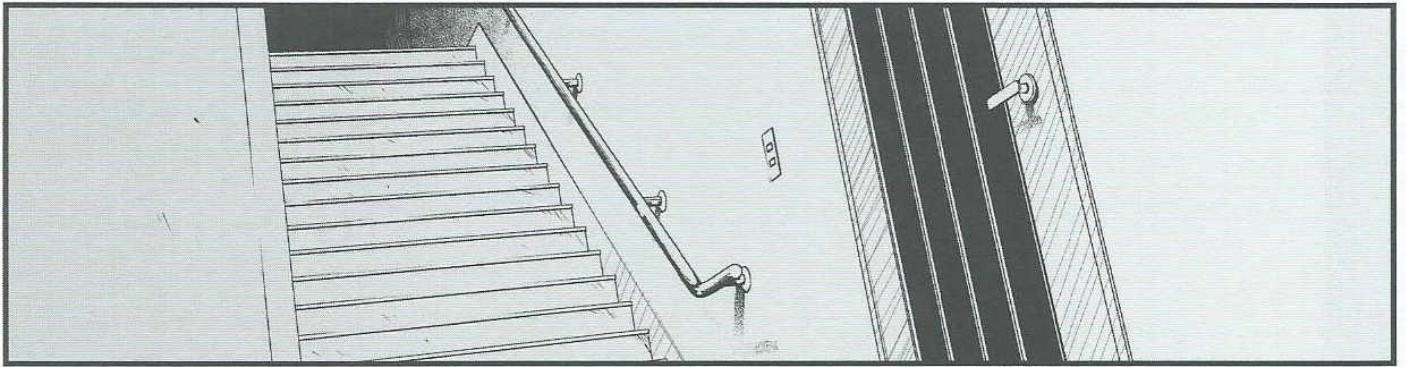
安心して頂戴…
他言するつもりは
ないから
もちろん沙織にも…

それじゃ…
おやすみなさい

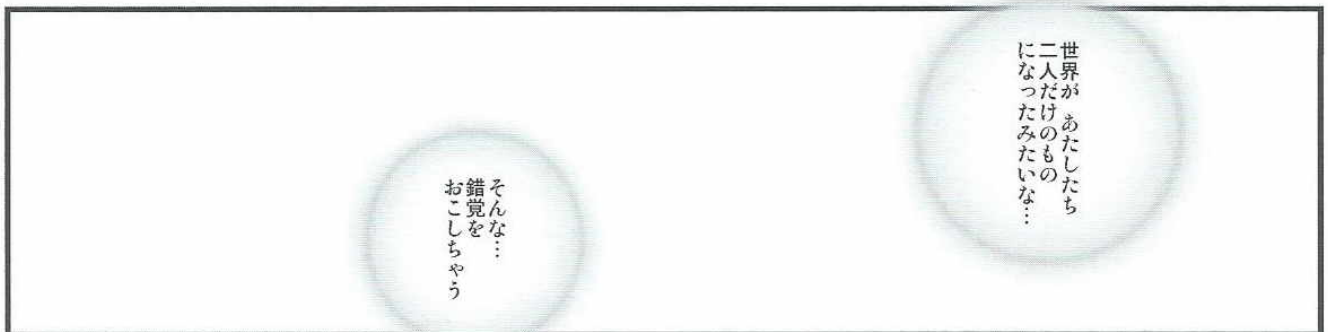
ま…待って
黒猫



翌日の桐乃の様子から
何かがあつたことは明らかだつた：
黒猫とそんなやり取りがあつたことは
このあと少ししてから知ることにな
るんだが――







俺も桐乃も分かかってはいたんだ…
この関係を続けるには駆け落ち
するしか手段はないってことを

ホ…ホテルとか
よく分かんないけど…

とにかくこれからは
そういう風にしよう
ってこと…いい？

おう…
わかったよ

お前がそうしたいって
言うんなら…

それでも踏ん切りが
つかなかったのは…

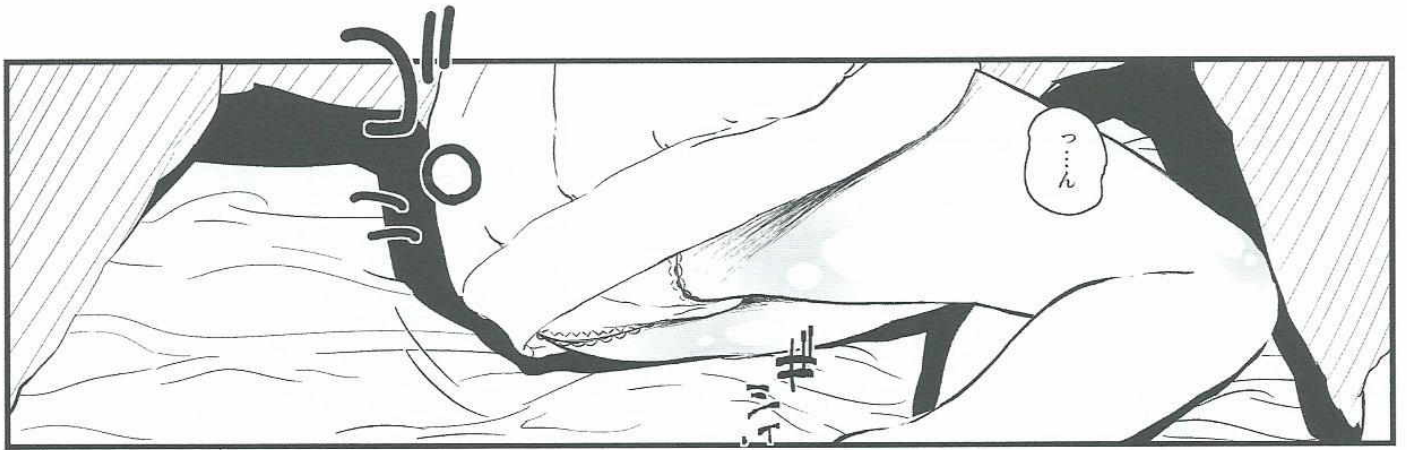
…ん

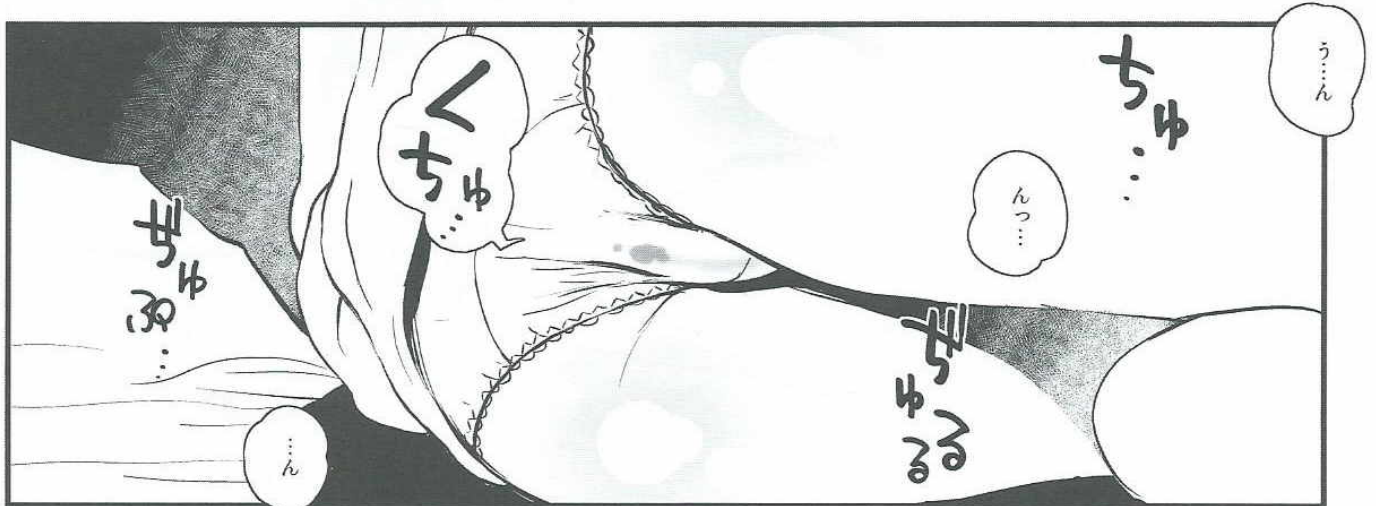
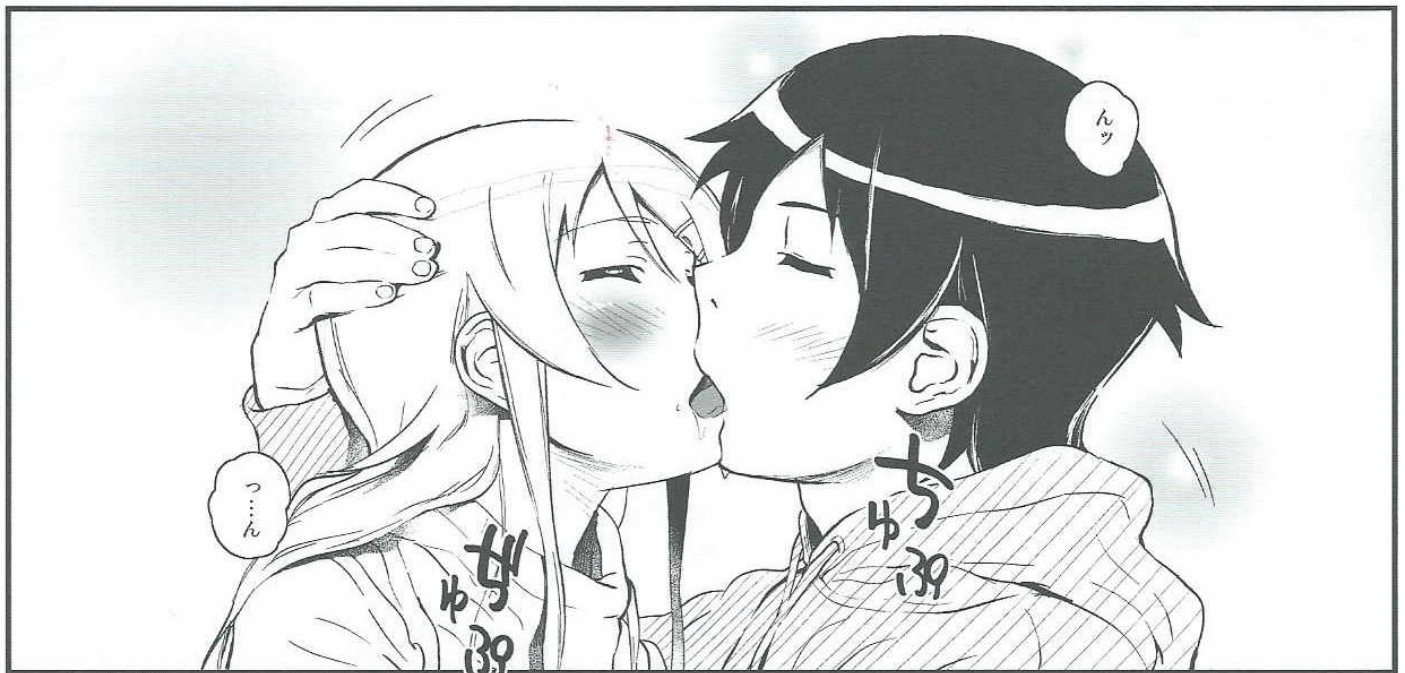
今までの日常と
この異様な非日常…
どちらも同じくらい
大切だったから…

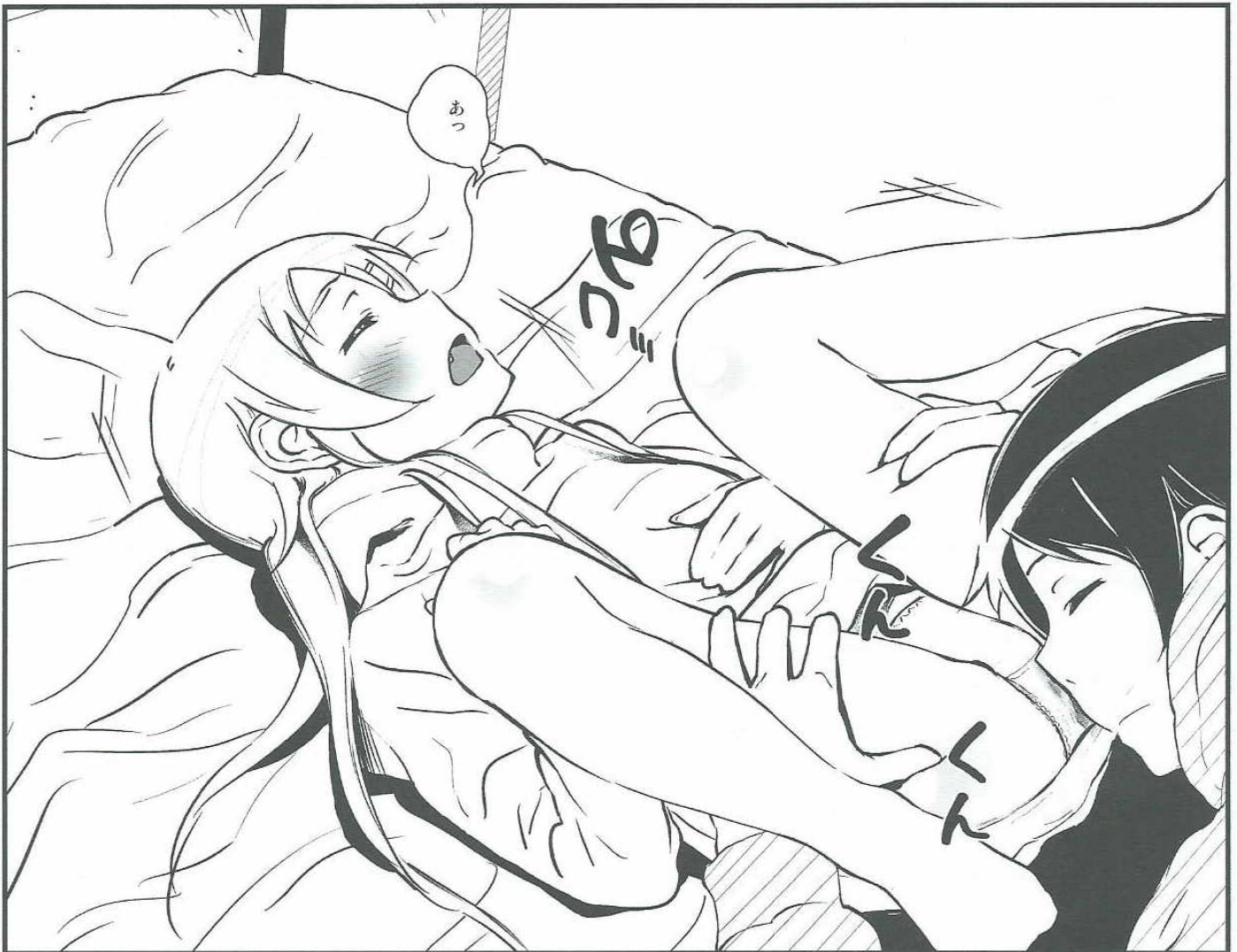
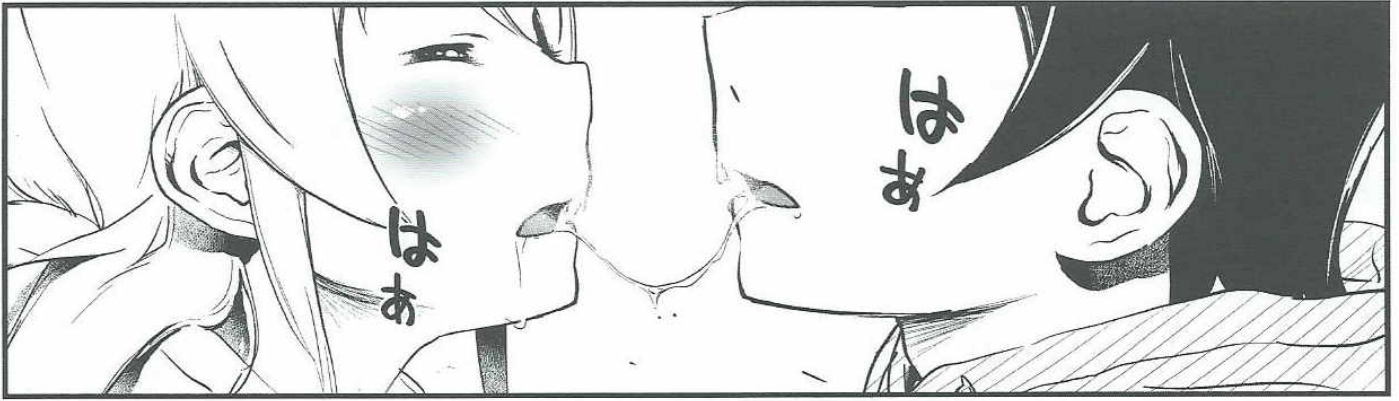
黒猫と…沙織と…あやせと…
あいつらと話して一緒に
いる時間はすっげえ楽しいし
幸せだって感じるんだらう…
俺も同じだ

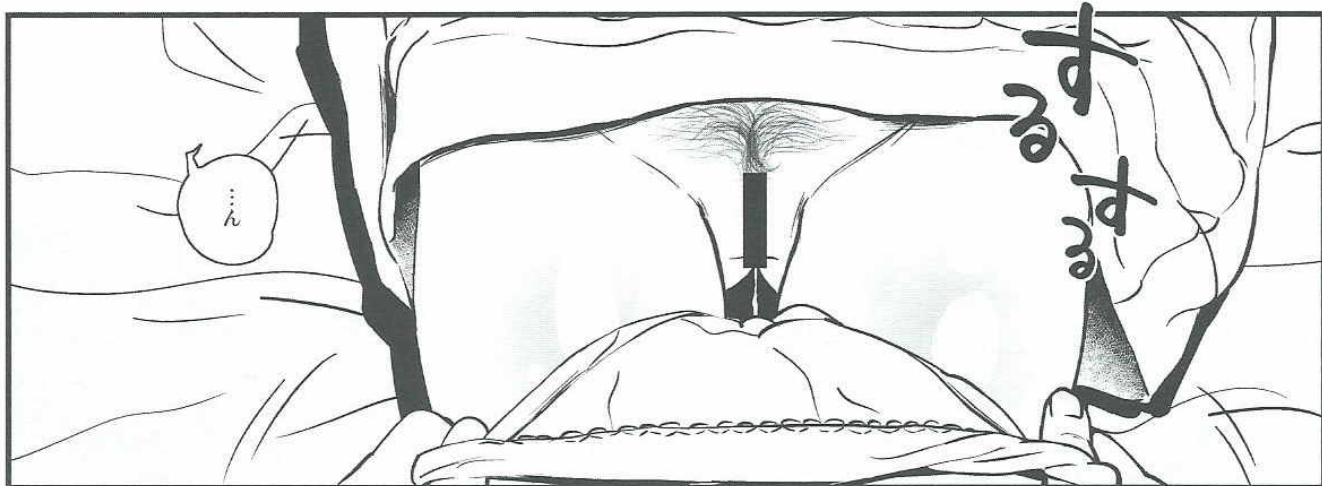
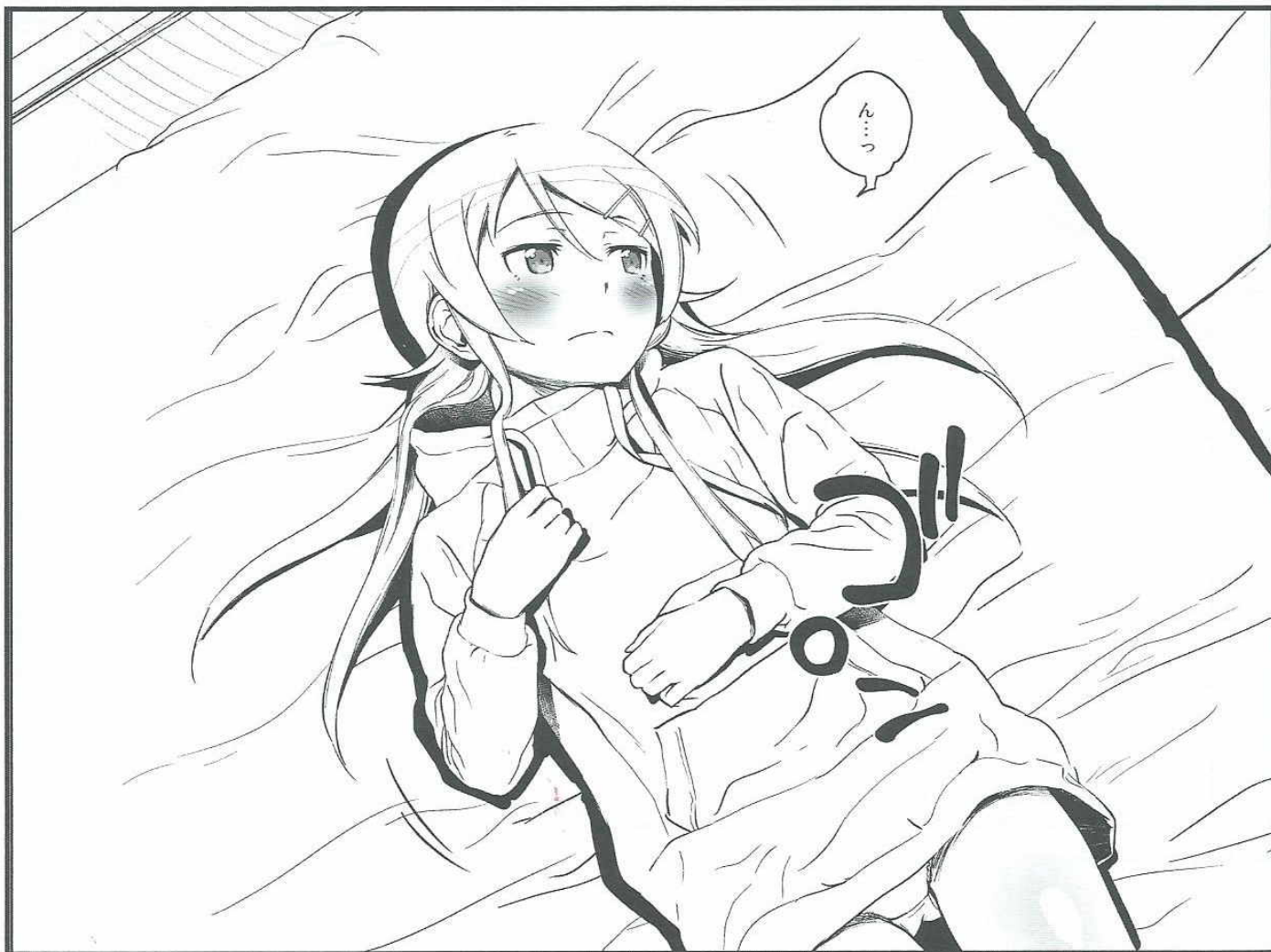
でも…二人きりでこうやって
イチャついて…キスして
セックスしてる時間も
めちゃくちゃ心が満たされてさ





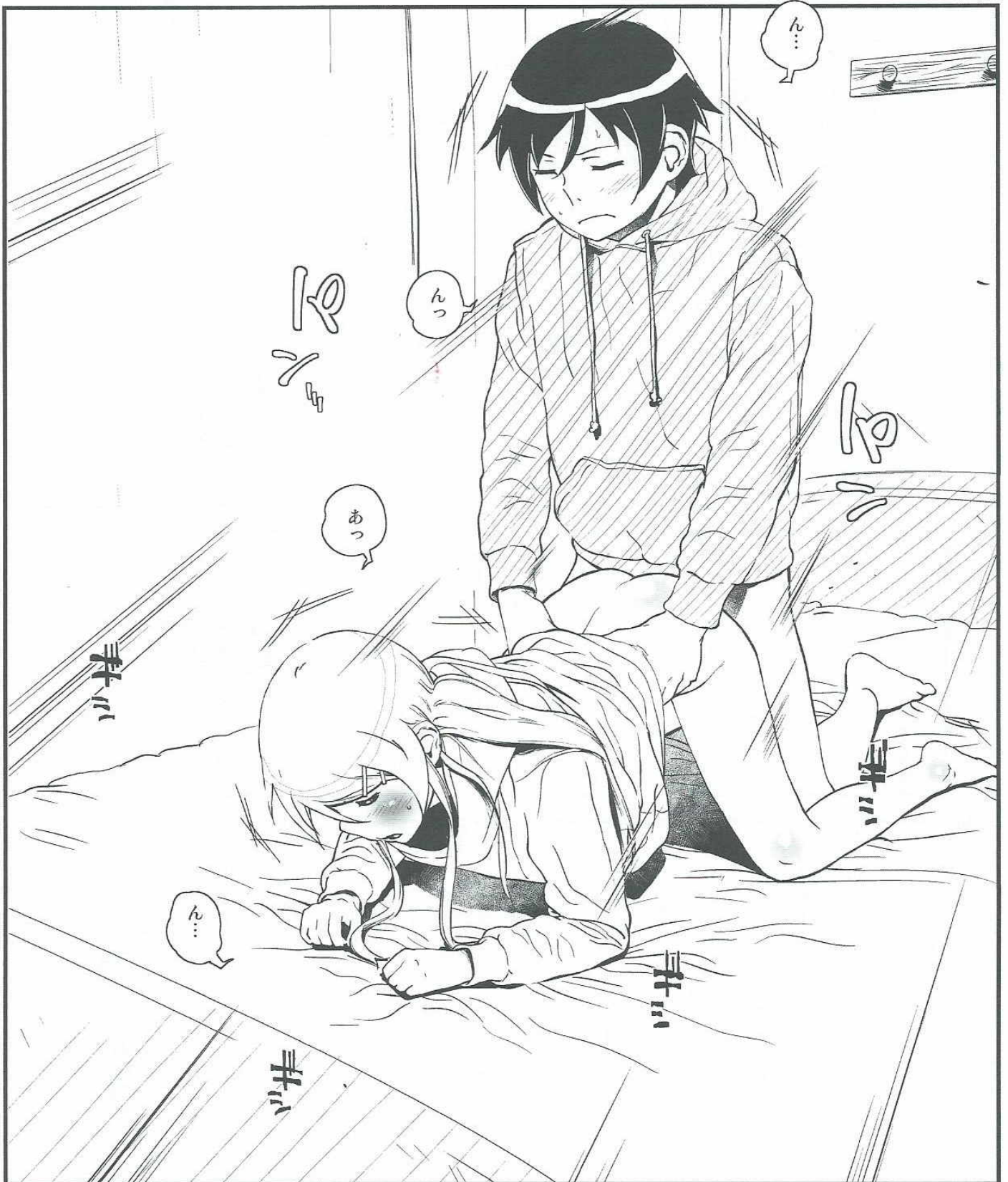


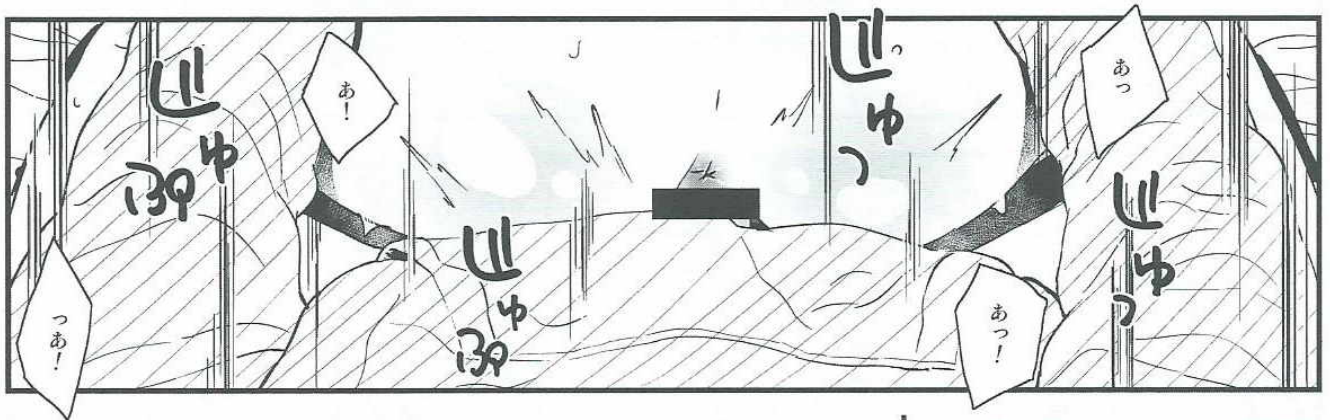
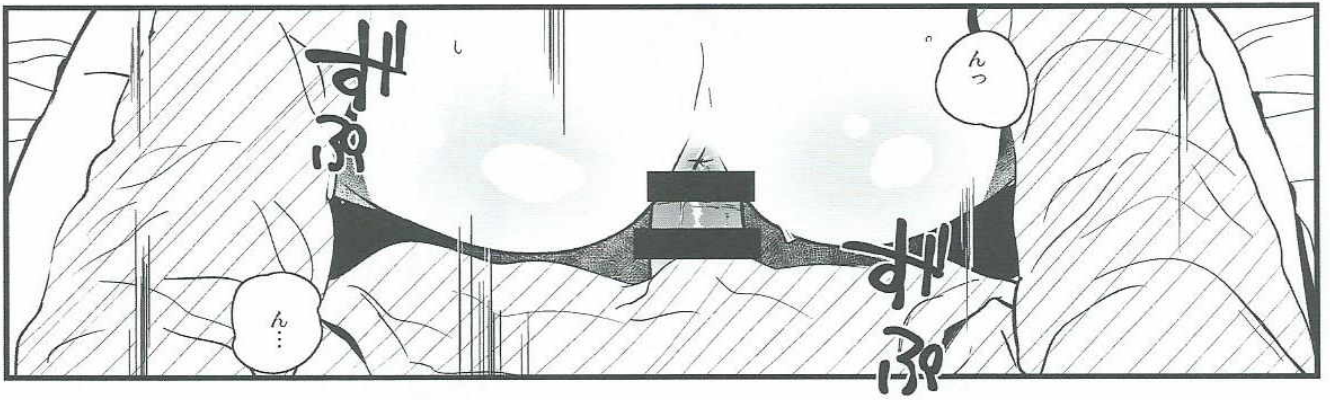


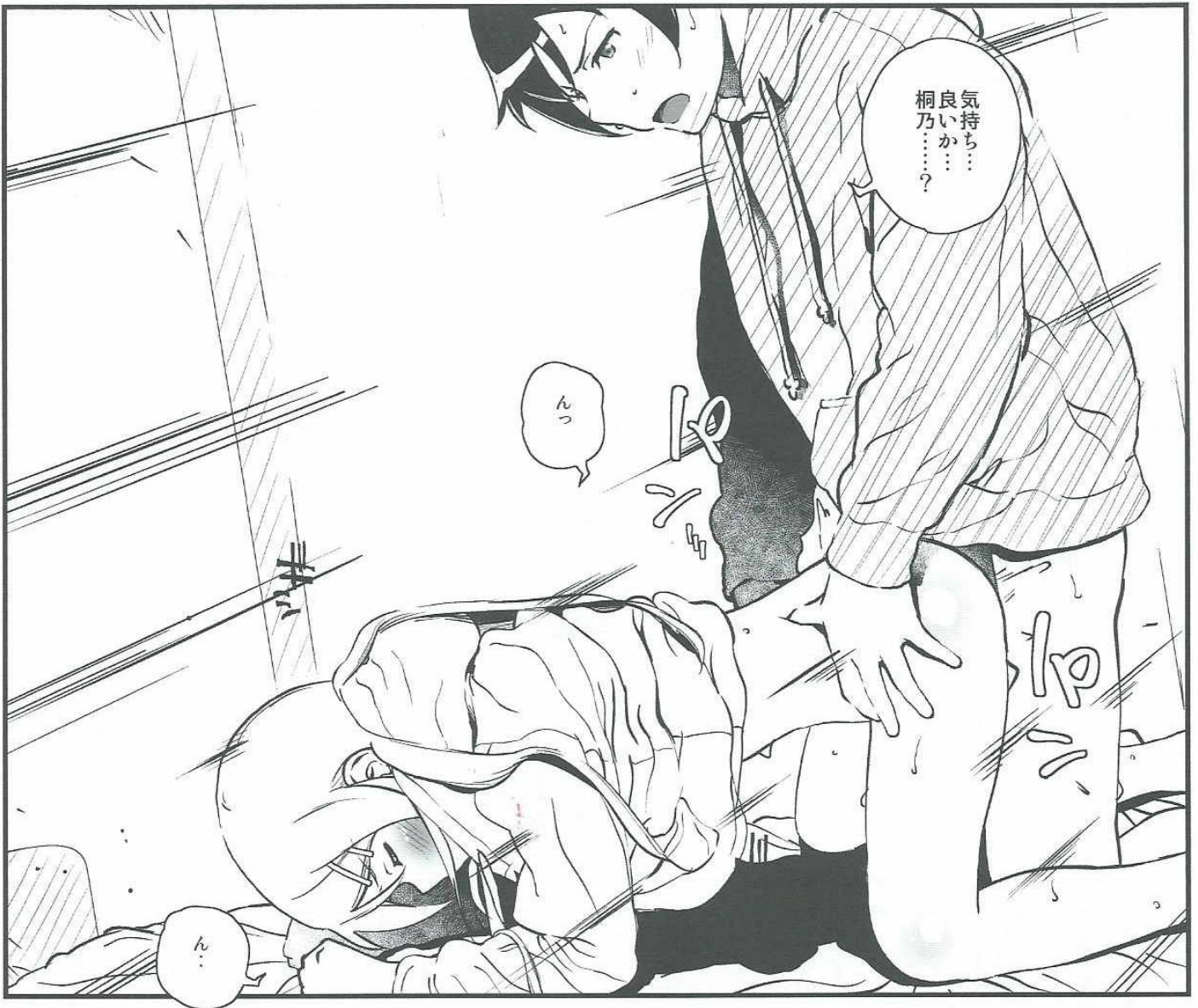


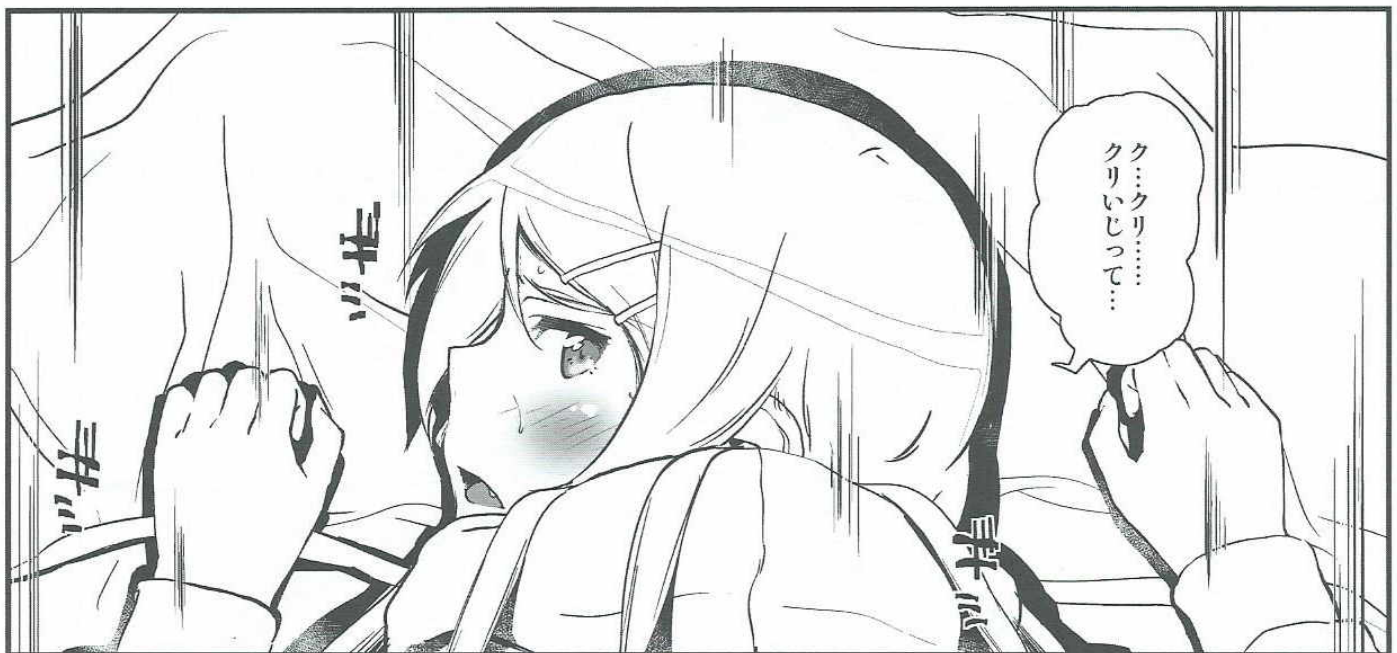




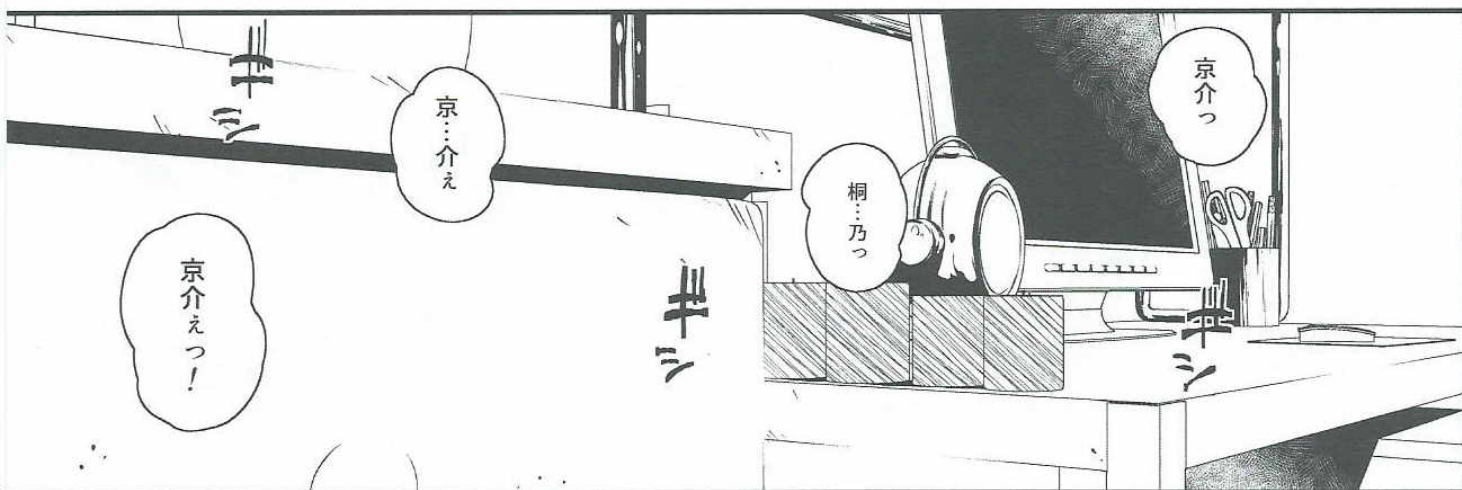


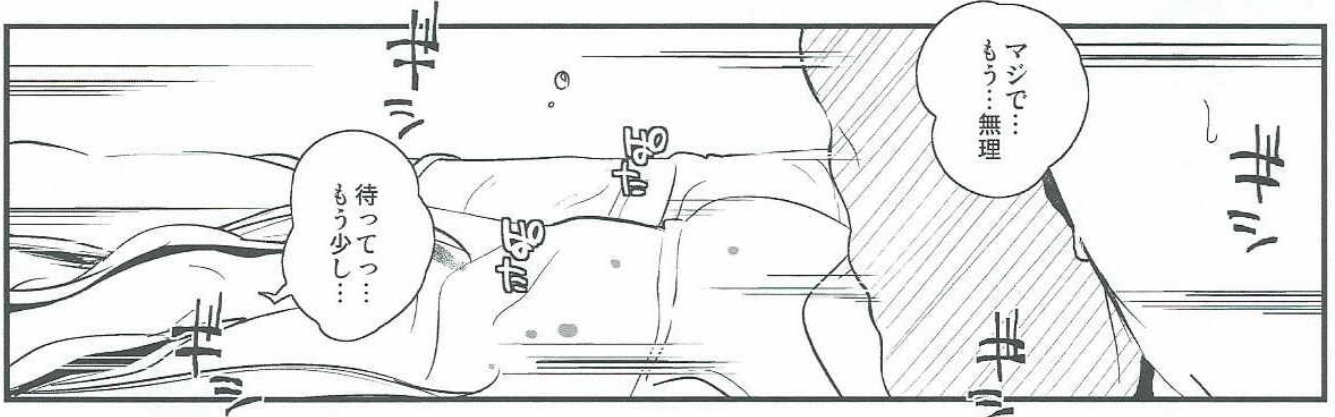
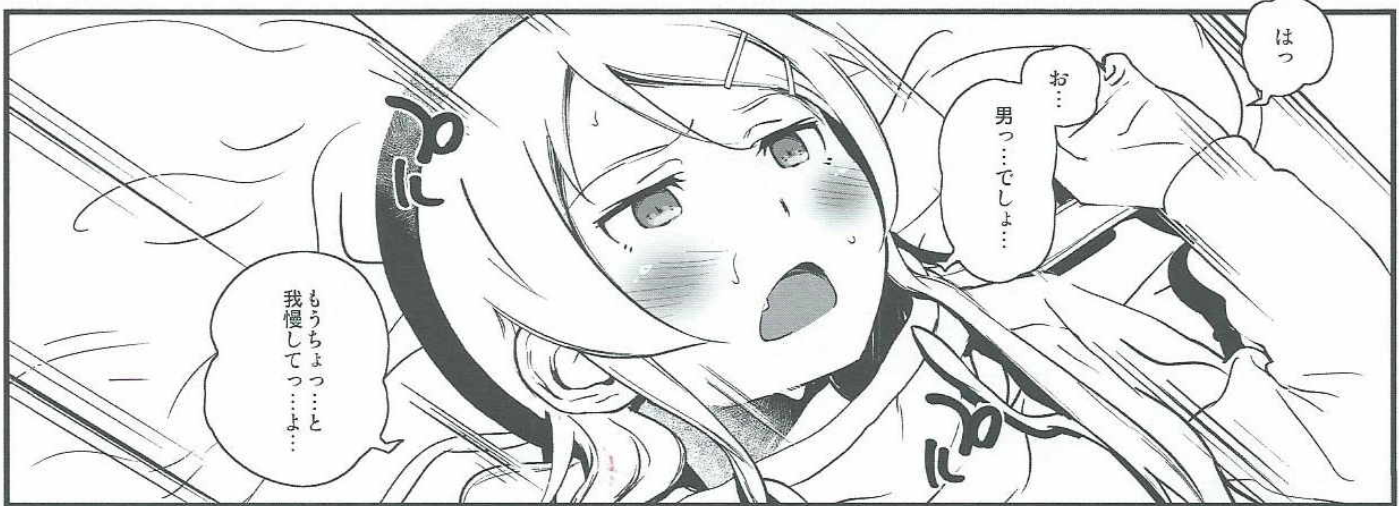
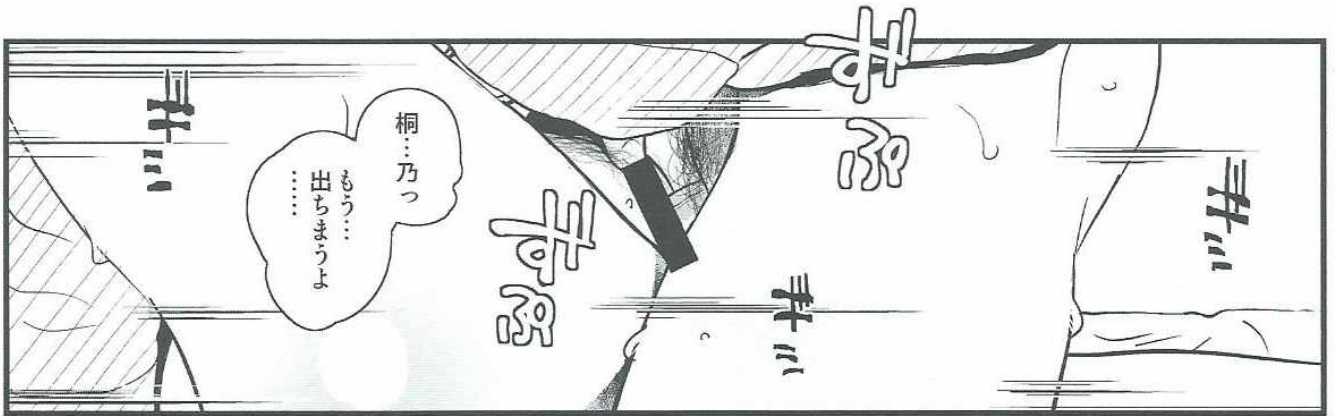














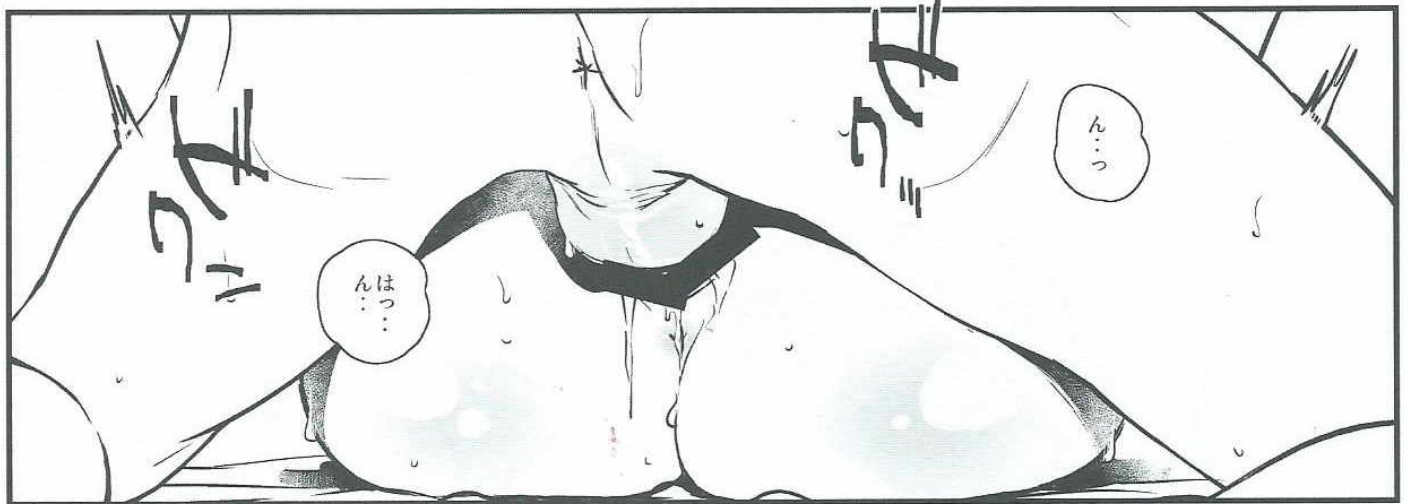
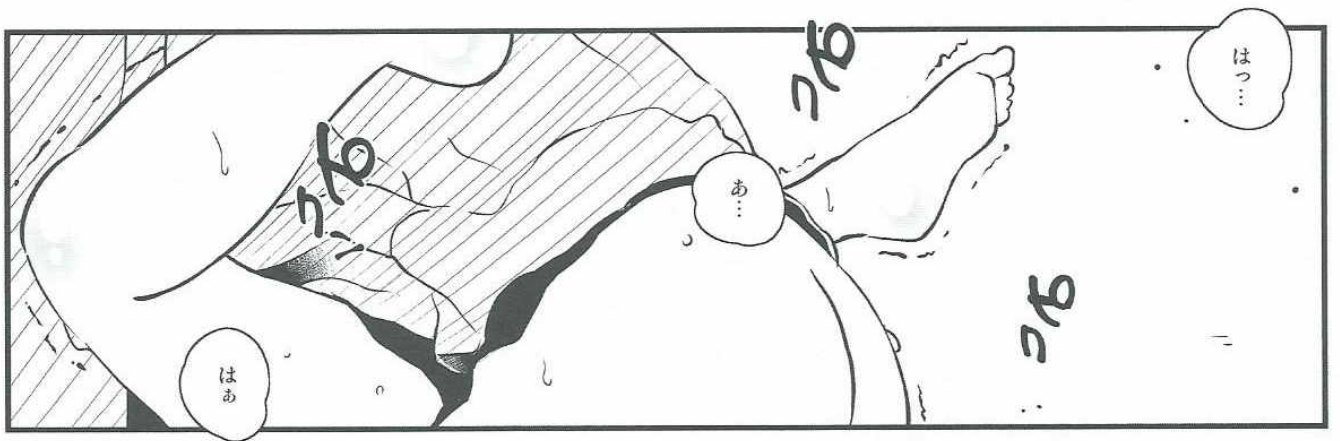
んっ...
んっん!!

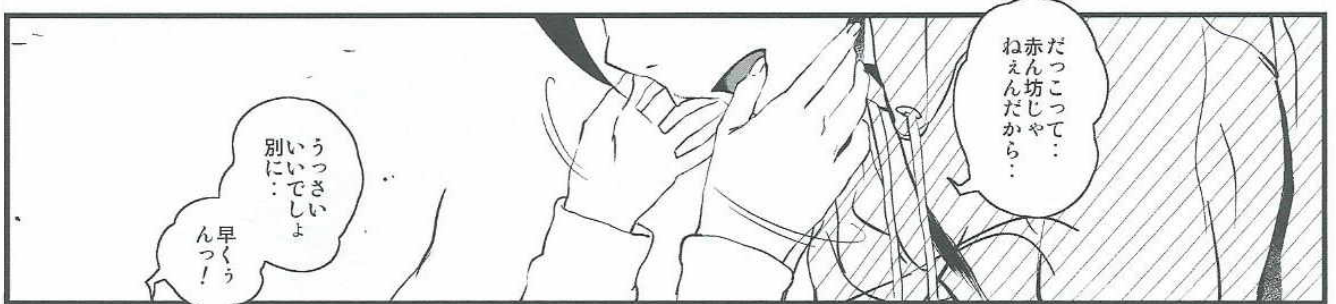
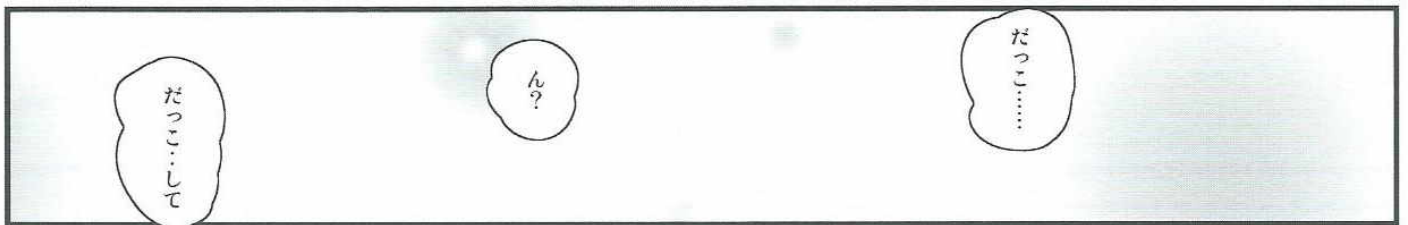
んんっ!!!

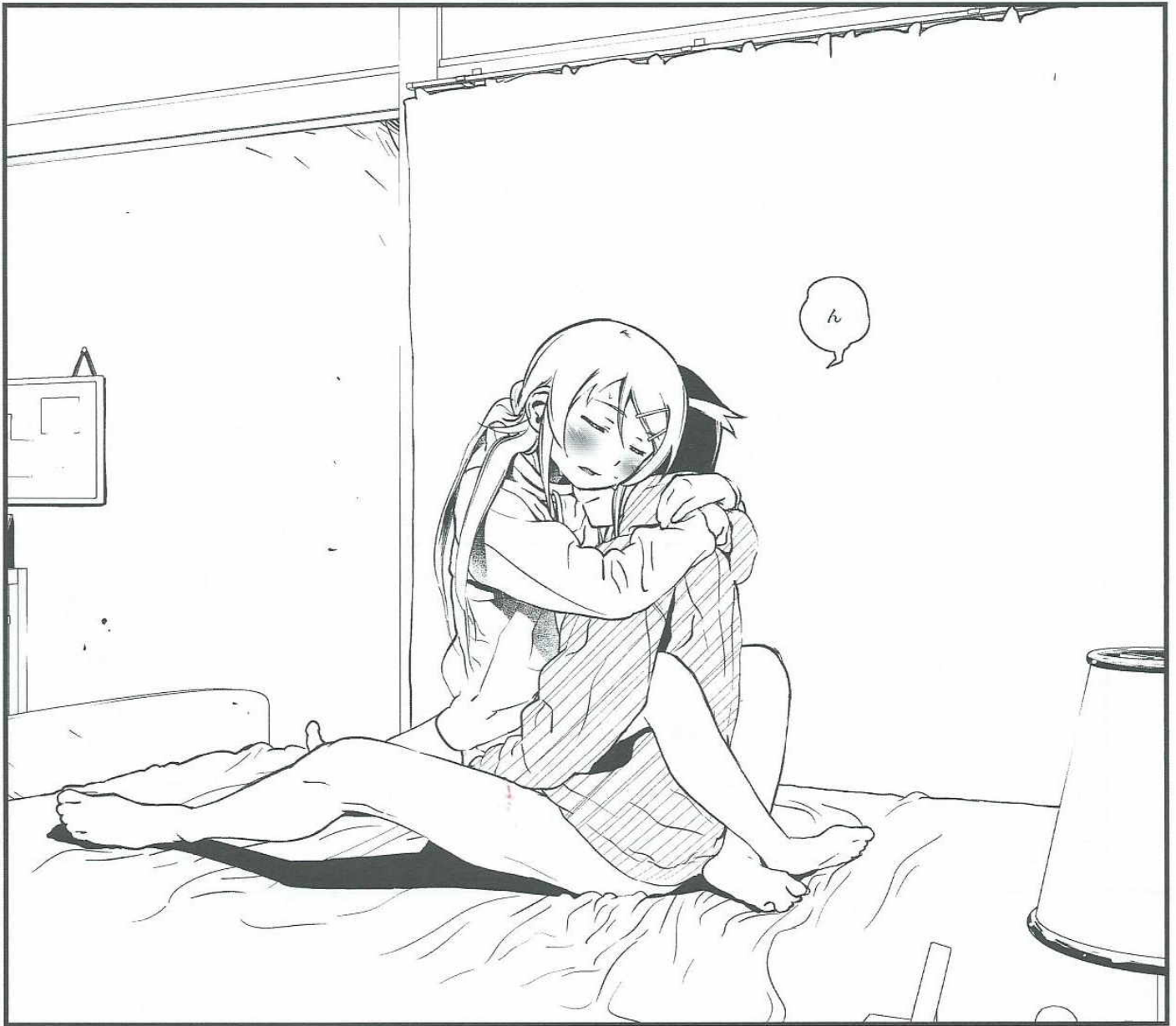
んんん!!

っ!!

セーラー







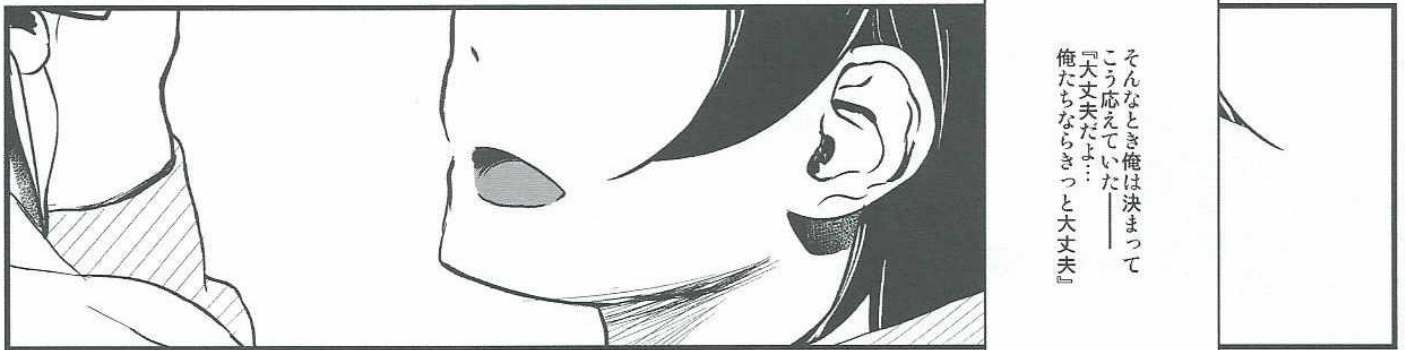
桐乃が口にしようとした言葉が：俺にはなんとなく分かってしまった



『全部捨てて二人っきりでどこかへ——』
桐乃はそう言おうとしたんだ……きつと



俺も同じことを考えることが
数え切れないほどあったからな



そんなとき俺は決まって
こう応えていた——
『大丈夫だよ……』
俺たちならきつと大丈夫

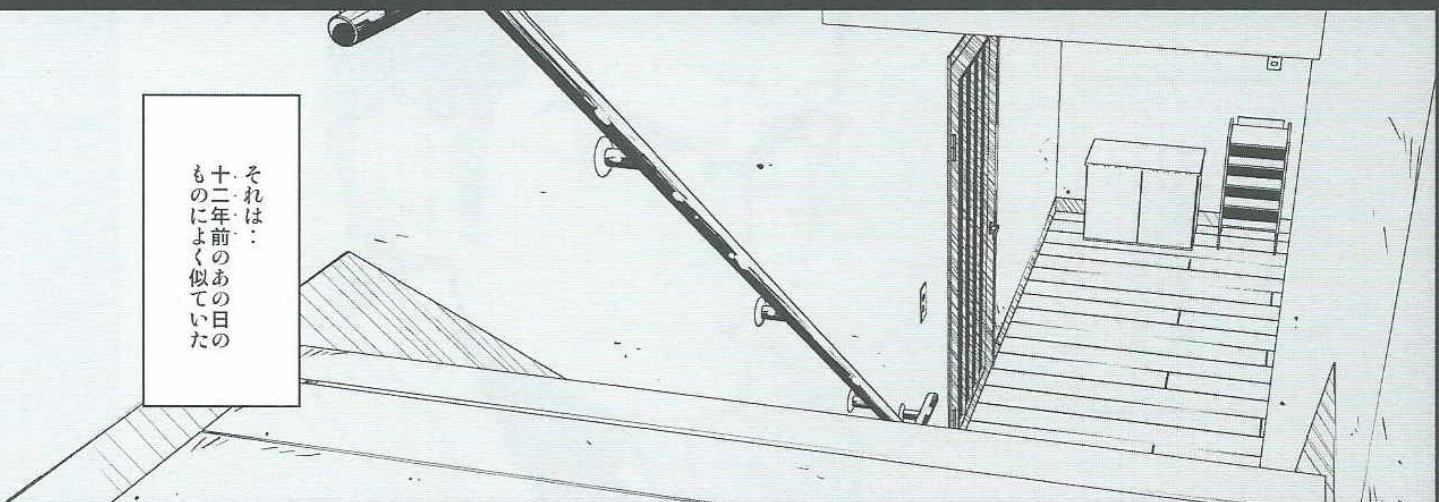


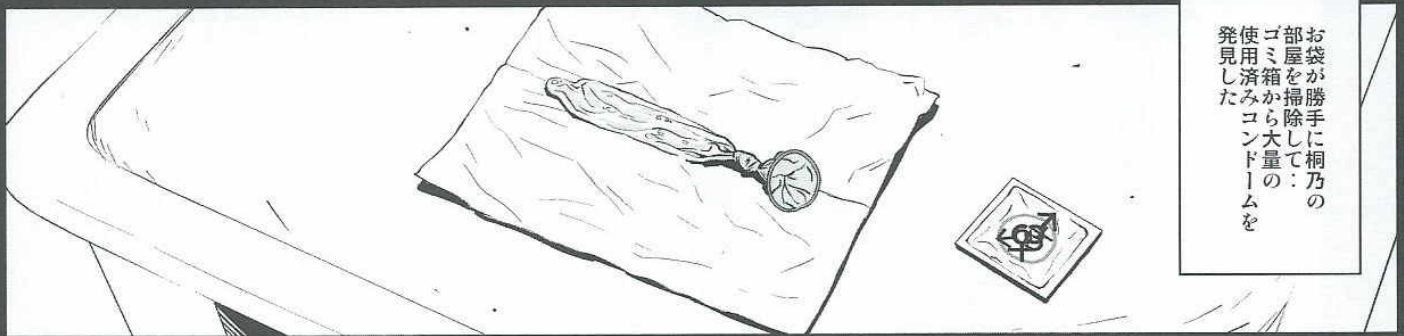
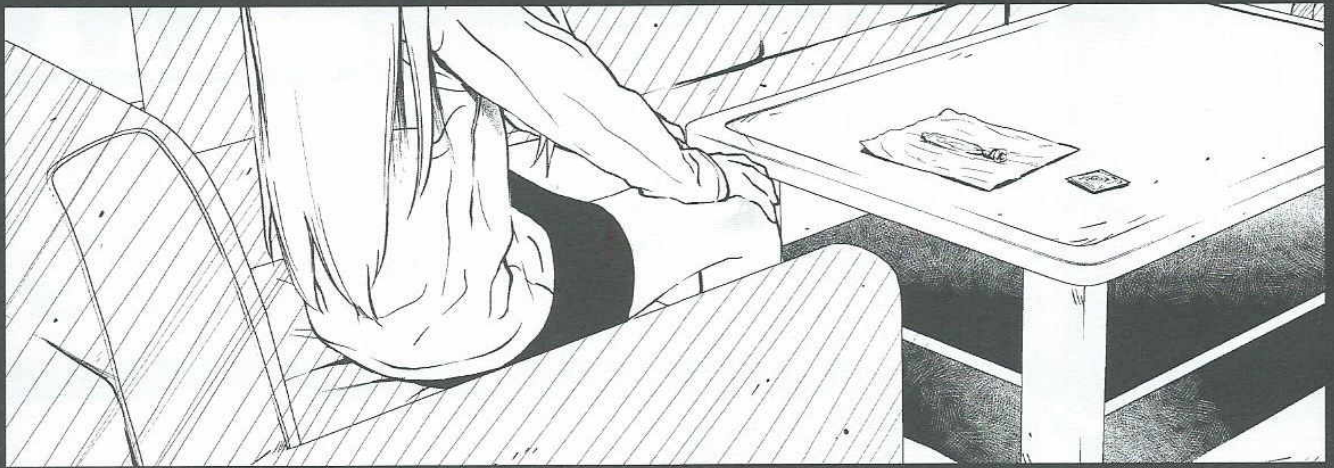
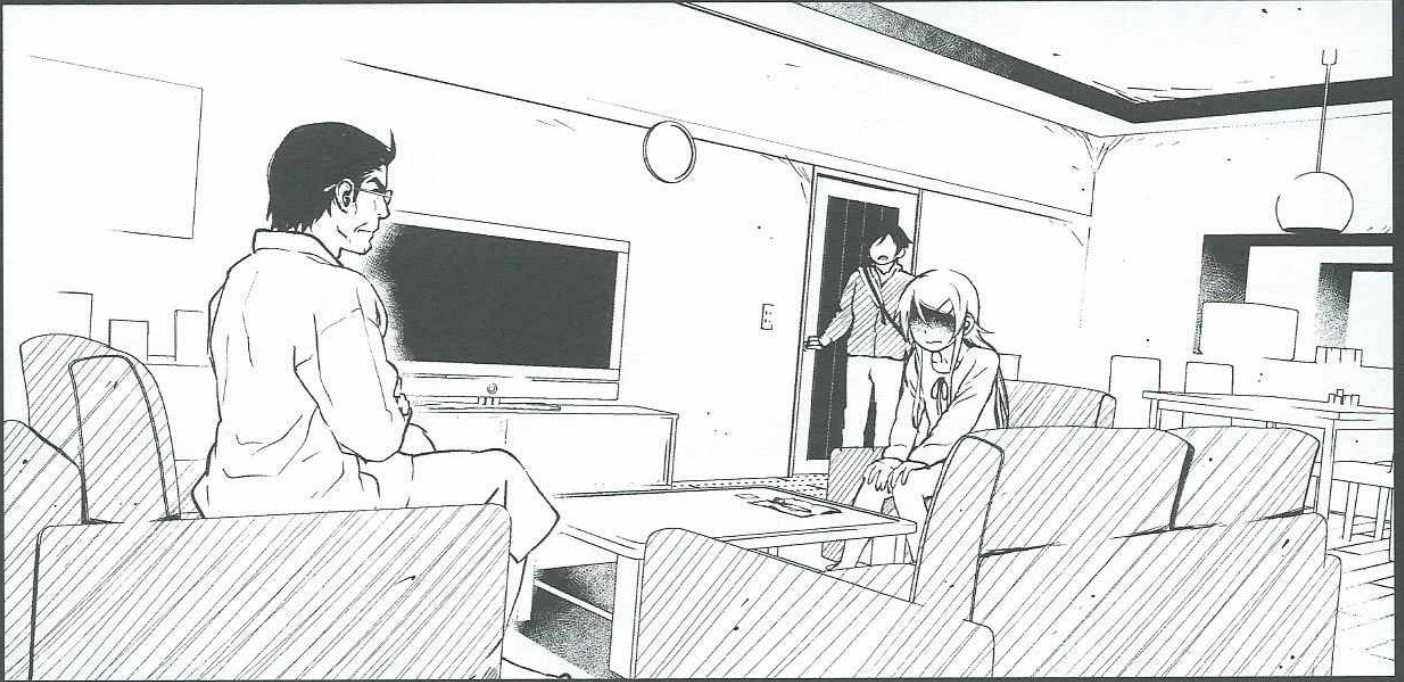
相変わらずなんの根拠も
なかったのに……
そう思い続けていれば
何とかなるんじゃないかって……
俺も桐乃も思っていたんだ

でも…思い通りにことは
進まないもんなんだよな…



このあとすぐに…
俺たちはそれを痛感する
ことになる







問い詰める親父と
答えられない桐乃！
でもそれは肯定以外の
なにもでもなく…



そんな事実を知った親が
とる行動といえは一つしか
ないよな

…そういうことだ…
この日を境に…
俺たち兄妹は離ればなれになった

星くず☆ナミダ④

発行日:2014.9.30

発行:†NIL†

発行者:フジバヤシ春

印刷所:ねこのしっぽ

MAIL>>> hal.0.fujibayashi@gmail.com

